

宮城県医師会ヒアリングセンター業務概要
 (三歳児健診のみ収録)
 (昭和56年～平成元年)

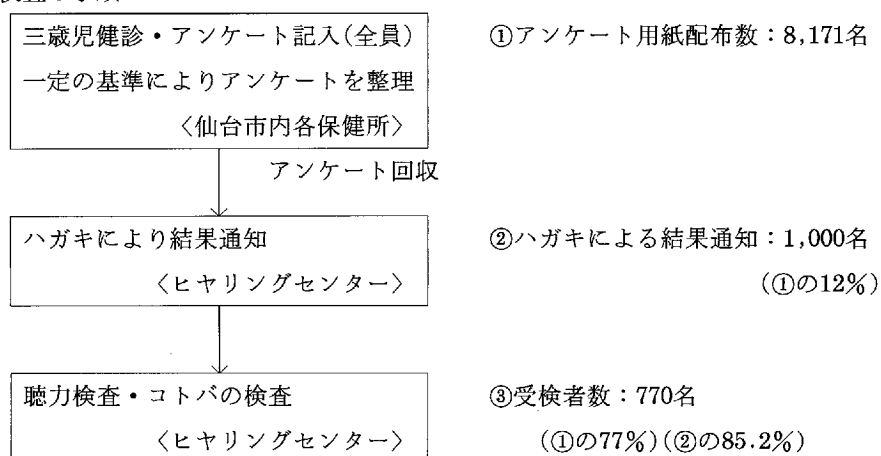
[昭和56年度]

検 診

三歳児健診(聴力・コトバ)(市委託事業)	770名
仙台市立学校児童生徒精密聴力調査(市医師会委託事業)	1,206名
人間ドック聴力検査	738名
集団聴力検査	62名

(イ)三歳児健診

◎検査の手順



◎検査結果

一定の基準によりアンケートを整理し、そこでピックアップされた1,000名に検査通知を出した。そのうち77%にあたる770名が検査を受けた。検査結果は下表の通りである(重複項目の場合は2項目に該当する)。

但し、検査継続中で結果が出ていないものは除いた。

発音異常	382(48.1%)
難聴	33(4.1%)
言語発達遅滞	55(4.1%)
吃音	15(1.9%)
異常なし	310(40.0%)
延べ人数	795

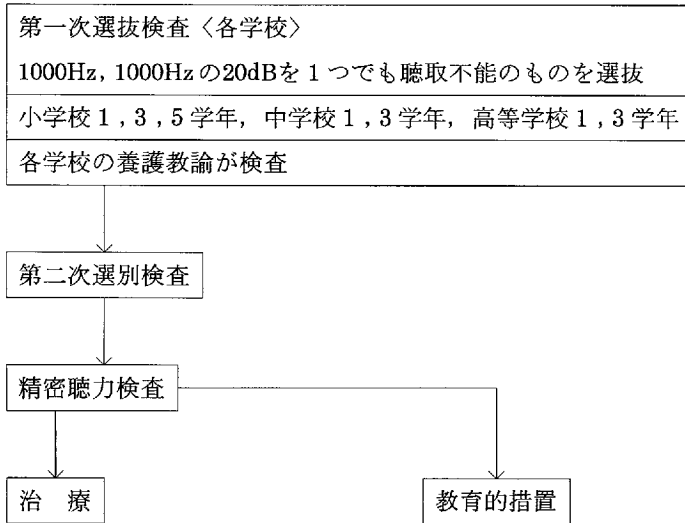
聴能・言語訓練

きこえやコトバに障害のある者には週1回～2回の聴能訓練，言語訓練を行ってきた。今年度訓練を受けた者は46名で，その内訳は次の通りである。

難聴	7(19.6%)
言語障害	37
{ 構音障害(含口蓋裂術後，異常構音他)	28(60.9%)
{ 言語遅滞	7(19.6%)

(ロ)仙台市学校児童生徒聴力検診

◎検査の手順



※個人の希望する耳鼻咽喉科において治療継続

※仙台市中心身障害児就学指導委員会(聴覚障害部会)に資料提出

◎検査結果

昭和56年在籍者50,550名中，第一次選別検査でピックアップされた者は1,322名。その内呼び出しに応じてヒヤリングセンターで第二次検査，および精密検査を受けた者は1,206名であった。そのうち難聴が認められた者は429名(出現率0.85%)で，これらの者については，耳鼻科医へ紹介，難聴学級へ教育相談依頼，等の事後処置を行った。

[昭和57年度]

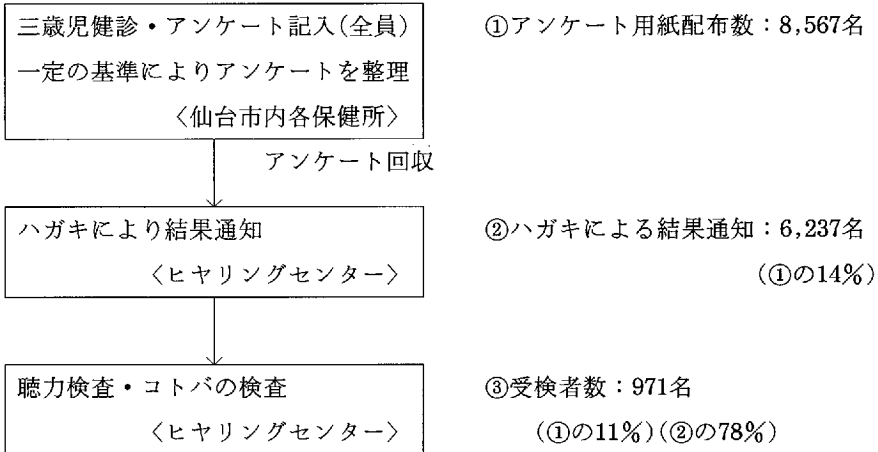
検 診

三歳児健診(聴力・コトバ)(市委託事業)	971名
仙台市立学校児童生徒精密聴力調査(市医師会委託事業)	1,000名
人間ドック聴力検査	775名

集団聴力検査	57名
--------	-----

(イ)三歳児健診

◎検査の手順



◎検査結果

一定の基準によりアンケートを整理し、そこでピックアップされた1,237名に検査通知を出した。そのうち78%にあたる971名が検査を受けた。検査結果は下表の通りである(重複項目の場合は2項目に該当する)。

但し、検査継続中で結果が出ていないものは除いた。

発音異常	463(47.0%)
難聴	36(3.7%)
言語発達遅滞	51(5.2%)
吃音	8(0.8%)
異常なし	427(43.6%)
延べ人数	985

聴能・言語訓練

きこえやコトバに障害のある者には週1回～2回の聴能訓練，言語訓練を行ってきた。今年度訓練を受けた者は46名で，その内訳は次の通りである。

難聴	7(13%)
言語障害	46
{ 構音障害	32(61%)
{ 言語遅滞	14(26%)

(ロ)仙台市学校児童生徒聴力検診

◎検査の手順

第一次選抜検査 〈各学校〉

1000Hz, 1000Hzの20dBを1つでも聴取不能のものを選抜
 小学校1, 3, 5学年, 中学校1, 3学年, 高等学校1, 3学年
 各学校の養護教諭が検査

第二次選別検査

精密聴力検査

治療

教育的措置

※個人の希望する耳鼻咽喉科に
 において治療継続

※仙台市中心身障害児就学指導委員会
 (聴覚障害部会)に資料提出

◎検査結果

昭和57年在籍者50,500名中, 第一次選別検査でピックアップされた者は1,152名。その内呼び出しに応じてヒヤリングセンターで第二次検査, および精密検査を受けた者は1,000名であった。そのうち難聴が認められた者は383名(出現率0.76%)で, これらの者については, 耳鼻科医へ紹介, 難聴学級へ教育相談依頼, 等の事後処置を行った。

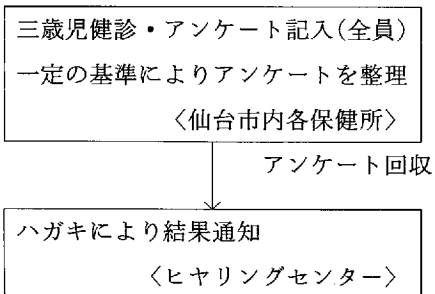
【昭和58年度】

検診

三歳児健診(聴力・コトバ)(市委託事業)	661名
仙台市立学校児童生徒精密聴力調査(市医師会委託事業)	919名
人間ドック聴力検査	378名
集団聴力検査	51名

(イ)三歳児健診

◎検査の手順



①アンケート用紙配布数：8,211名

②ハガキによる結果通知：781名

(①の9.5%)

↓
 聴力検査・コトバの検査
 〈ヒヤリングセンター〉

③受検者数：647名
 (①の7.8%)(②の83%)

◎検査結果

一定の基準によりアンケートを整理し、そこでピックアップされた781名に検査通知を出した。そのうち83%にあたる647名が検査を受けた。検査結果は下表の通りである(重複項目の場合は2項目に該当する)。

但し、検査継続中で結果が出ていないものは除いた。

発音異常	299(44.8%)
難聴	57(8.5%)
言語発達遅滞	57(8.5%)
吃音	24(3.6%)
異常なし	231(34.6%)
延べ人数	668

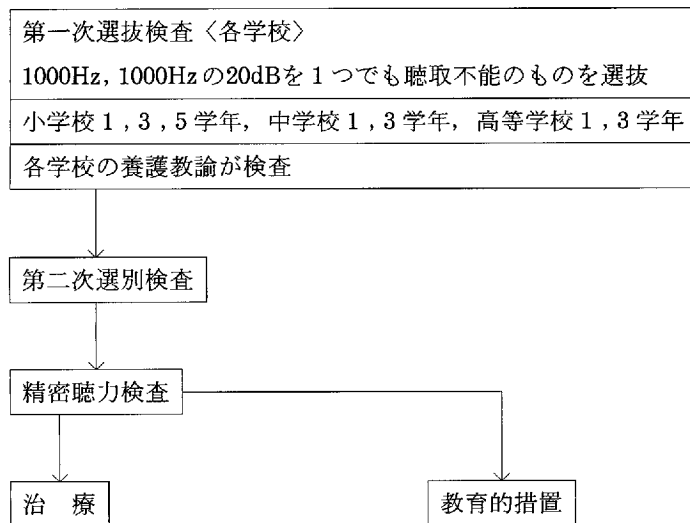
聴能・言語訓練

きこえやコトバに障害のある者には週1回～2回の聴能訓練、言語訓練を行ってきた。今年度訓練を受けた者は13名で、その内訳は次の通りである。

構音障害	7 (53.9%)
言語遅滞	6 (46.1%)

(ロ)仙台市学校児童生徒聴力検診

◎検査の手順



※個人の希望する耳鼻咽喉科に

※仙台市中心身障害児就学指導委員会

において治療継続

(聴覚障害部会)に資料提出

◎検査結果

昭和58年在籍者52,185名中、第一次選別検査でピックアップされた者は1,058名。その内呼び出しに応じてヒヤリングセンターで第二次検査、および精密検査を受けた者は919名であった。そのうち難聴が認められた者は357名(出現率0.69%)で、これらの者については、耳鼻科医へ紹介、難聴学級へ教育相談依頼、等の事後処置を行った。

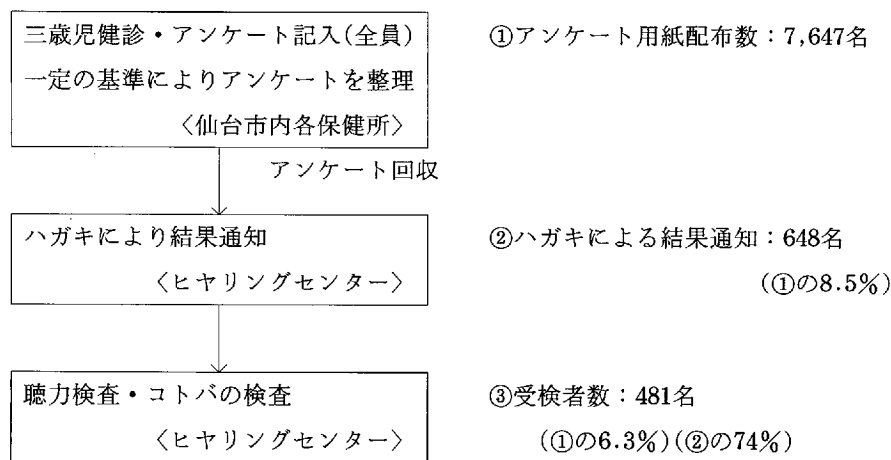
[昭和59年度]

検診

三歳児健診(聴力・コトバ)(市委託事業)	506名
仙台市立学校児童生徒精密聴力調査(市医師会委託事業)	946名
人間ドック聴力検査	355名
集団聴力検査	48名

(イ)三歳児健診

◎検査の手順



◎検査結果

一定の基準によりアンケートを整理し、そこでピックアップされた648名に検査通知を出した。そのうち74%にあたる481名が検査を受けた。検査結果は下表の通りである(重複項目の場合は2項目に該当する)。

但し、検査継続中で結果が出ていないものは除いた。

発音異常	212(42.4%)
難聴	41(8.2%)
言語発達遅滞	30(6.0%)
吃音	11(2.2%)

異常なし	206(41.2%)
延べ人数	500

聴能・言語訓練

きこえやコトバに障害のある者には週1回～2回の聴能訓練，言語訓練を行ってきた。今年度訓練を受けた者は9名で，その内訳は次の通りである。

構音障害	7 (77.7%)
言語遅滞	2

(ロ) 仙台市学校児童生徒聴力検診

◎検査の手順

第一次選抜検査 <各学校> 1000Hz, 1000Hzの20dBを1つでも聴取不能のものを選抜 小学校1, 3, 5学年, 中学校1, 3学年, 高等学校1, 3学年 各学校の養護教諭が検査

↓

第二次選別検査

↓

精密聴力検査

↓

治療

↓

教育的措置

※個人の希望する耳鼻咽喉科に
おいて治療継続

※仙台市中心身障害児就学指導委員会
(聴覚障害部会)に資料提出

◎検査結果

昭和59年在籍者51,654名中，第一次選別検査でピックアップされた者は1,109名。その内呼び出しに応じてヒヤリングセンターで第二次検査，および精密検査を受けた者は946名であった。そのうち難聴が認められた者は318名(出現率0.62%)で，これらの者については，耳鼻科医へ紹介，難聴学級へ教育相談依頼，等の事後処置を行った。

[昭和60年度]

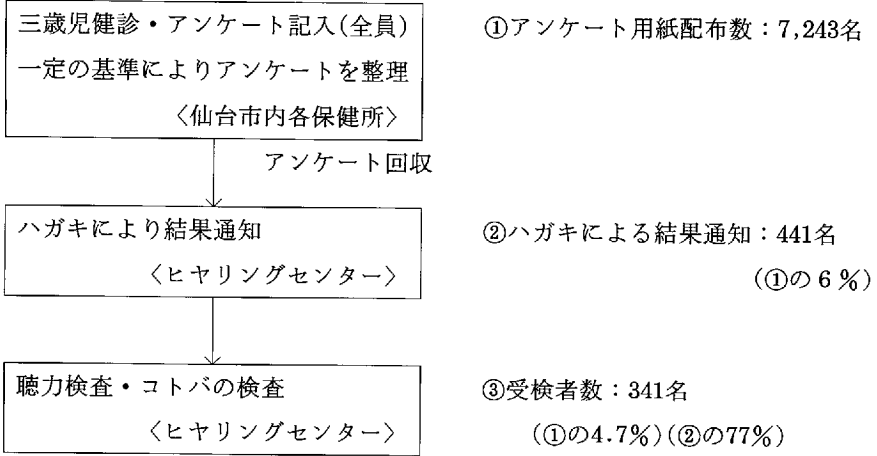
検診

三歳児健診(聴力・コトバ)(市委託事業)	354名
仙台市立学校児童生徒精密聴力調査(市医師会委託事業)	829名
人間ドック聴力検査	273名

集団聴力検査	48名
--------	-----

(イ)三歳児健診

◎検査の手順



◎検査結果

一定の基準によりアンケートを整理し、そこでピックアップされた441名に検査通知を出した。そのうち77%にあたる341名が検査を受けた。検査結果は下表の通りである(重複項目の場合は2項目に該当する)。

但し、検査継続中で結果が出ていないものは除いた。

発音異常	152(43%)
難聴	25(7%)
言語発達遅滞	17(5%)
吃音	4(1%)
異常なし	153(44%)
延べ人数	351

聴能・言語訓練

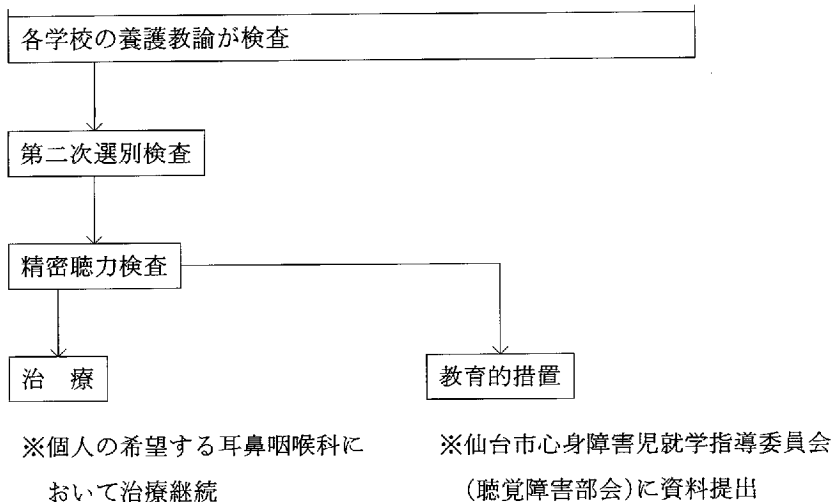
きこえやコトバに障害のある者には週1回～2回の聴能訓練、言語訓練を行ってきた。今年度訓練を受けた者は7名で、その内訳は次の通りである。

構音障害	6(86%)
言語遅滞	1

(ロ)仙台市学校児童生徒聴力検診

◎検査の手順

第一次選抜検査〈各学校〉
1000Hz, 1000Hzの20dBを1つでも聴取不能のものを選抜
小学校1, 3, 5学年, 中学校1, 3学年, 高等学校1, 3学年



◎検査結果

昭和60年在籍者51,832名中、第一次選別検査でピックアップされた者は955名。その内呼び出しに応じてヒヤリングセンターで第二次検査、および精密検査を受けた者は829名であった。そのうち難聴が認められた者は340名(出現率0.7%)で、これらの者については、耳鼻科医へ紹介、難聴学級へ教育相談依頼、等の事後処置を行った。

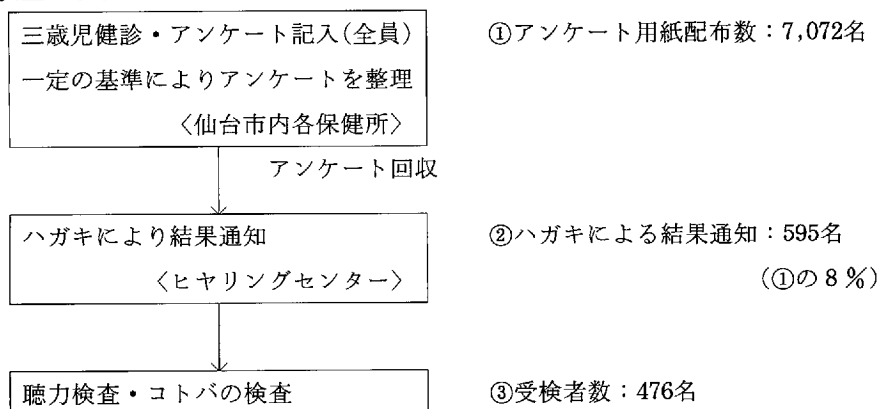
[昭和61年度]

検 診

三歳児健診(聴力・コトバ)(市委託事業)	487名
仙台市立学校児童生徒精密聴力調査(市医師会委託事業)	854名
人間ドック聴力検査	163名
集団聴力検査	61名

(イ)三歳児健診

◎検査の手順



〈ヒヤリングセンター〉

(①の6.7%)(②の80%)

◎検査結果

一定の基準によりアンケートを整理し、そこでピックアップされた595名に検査通知を出した。そのうち80%にあたる476名が検査を受けた。検査結果は下表の通りである(重複項目の場合は2項目に該当する)。

但し、検査継続中で結果が出ていないものは除いた。

発音異常	185(38%)
難聴	35(7%)
言語発達遅滞	21(4%)
吃音	5(1%)
異常なし	242(50%)
延べ人数	488

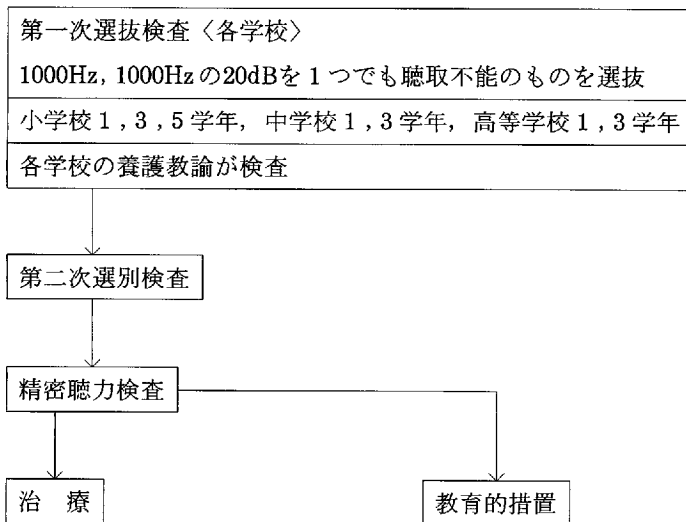
聴能・言語訓練

きこえやコトバに障害のある者には週1回～2回の聴能訓練、言語訓練を行ってきた。今年度訓練を受けた者は5名で、その内訳は次の通りである。

構音障害	2
言語遅滞	2
難聴	1

(ロ)仙台市学校児童生徒聴力検診

◎検査の手順



※個人の希望する耳鼻咽喉科において治療継続

※仙台市中心身障害児就学指導委員会(聴覚障害部会)に資料提出

◎検査結果

昭和61年在籍者51,166名中、第一次選別検査でピックアップされた者は1,000名。その内呼び出しに応じてヒヤリングセンターで第二次検査、および精密検査を受けた者は854名であった。そのうち難聴が認められた者は350名(出現率0.7%)で、これらの者については、耳鼻科医へ紹介、難聴学級へ教育相談依頼、等の事後処置を行った。

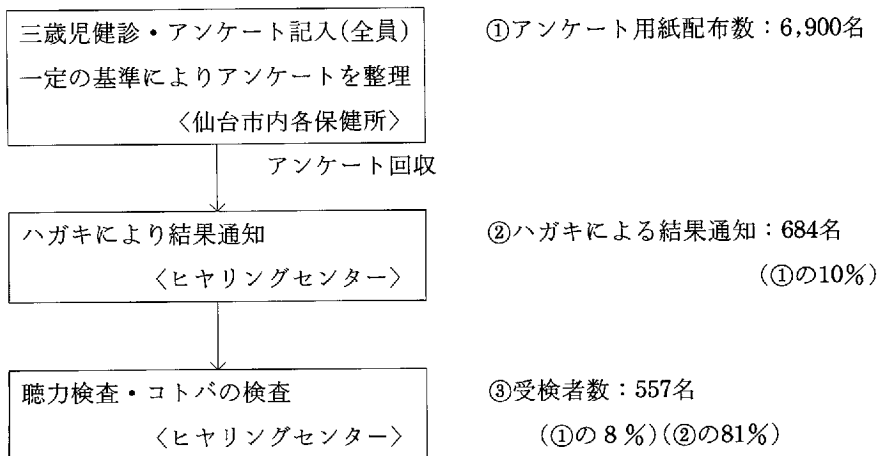
[昭和62年度]

検 診

三歳児健診(聴力・コトバ)(市委託事業)	576名
仙台市立学校児童生徒精密聴力調査(市医師会委託事業)	816名
人間ドック聴力検査	175名
集団聴力検査	48名

(イ)三歳児健診

◎検査の手順



◎検査結果

一定の基準によりアンケートを整理し、そこでピックアップされた684名に検査通知を出した。そのうち81%にあたる557名が検査を受けた。検査結果は下表の通りである(重複項目の場合は2項目に該当する)。

但し、検査継続中で結果が出ていないものは除いた。

発音異常	217(38%)
難聴	43(8%)
言語発達遅滞	25(4%)
吃音	4(1%)
異常なし	286(49%)

延べ人数 575

聴能・言語訓練

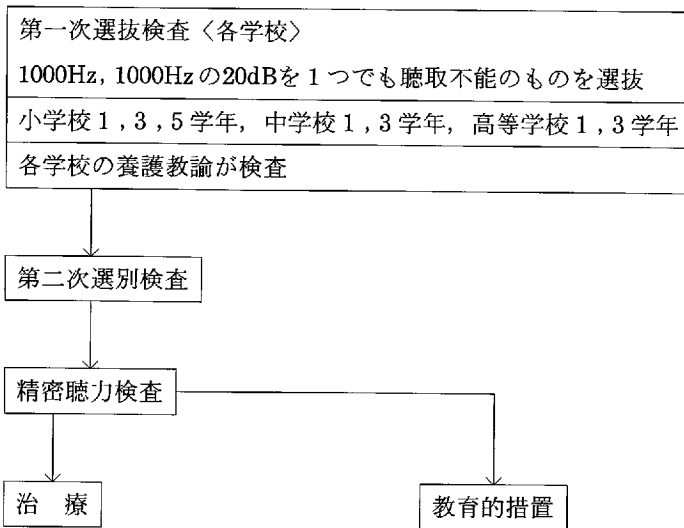
きこえやコトバに障害のある者には週1回～2回の聴能訓練，言語訓練を行ってきた。今年度訓練を受けた者は13名で，その内訳は次の通りである。

構音障害 7

言語遅滞 6

(ロ)仙台市学校児童生徒聴力検診

◎検査の手順



※個人の希望する耳鼻咽喉科において治療継続

※仙台市中心身障害児就学指導委員会(聴覚障害部会)に資料提出

◎検査結果

昭和62年在籍者51,060名中，第一次選別検査でピックアップされた者は955名。その内呼び出しに応じてヒヤリングセンターで第二次検査，および精密検査を受けた者は816名であった。そのうち難聴が認められた者は366名(出現率0.7%)で，これらの者については，耳鼻科医へ紹介，難聴学級へ教育相談依頼，等の事後処置を行った。

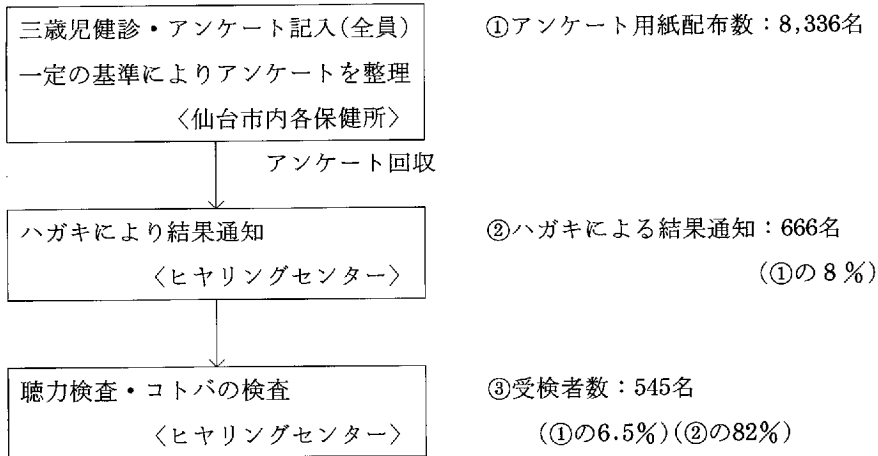
[昭和63年度]

検 診

三歳児健診(聴力・コトバ)(市委託事業)	567名
仙台市立学校児童生徒精密聴力調査(市医師会委託事業)	885名
人間ドック聴力検査	173名
集団聴力検査	50名

(イ)三歳児健診

◎検査の手順



◎検査結果

一定の基準によりアンケートを整理し、そこでピックアップされた666名に検査通知を出した。そのうち82%にあたる545名が検査を受けた。検査結果は下表の通りである(重複項目の場合は2項目に該当する)。

但し、検査継続中で結果が出ていないものは除いた。

発音異常	231(42%)
難聴	33(6%)
言語発達遅滞	20(4%)
吃音	5(1%)
異常なし	262(47%)
延べ人数	551

聴能・言語訓練

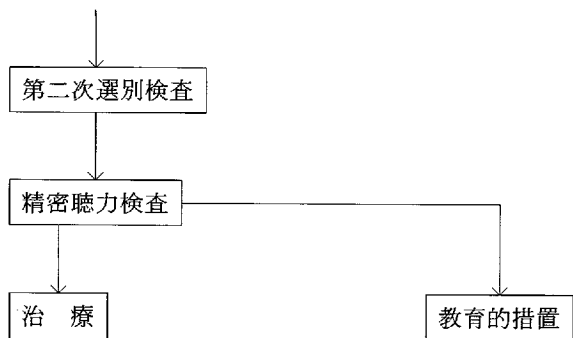
きこえやコトバに障害のある者には週1回～2回の聴能訓練、言語訓練を行ってきた。今年度訓練を受けた者は10名で、その内訳は次の通りである。

構音障害	5
言語遅滞	5

(ロ)仙台市学校児童生徒聴力検診

◎検査の手順

第一次選抜検査 <各学校>
1000Hz, 1000Hzの20dBを1つでも聴取不能のものを選抜
小学校1, 3, 5学年, 中学校1, 3学年, 高等学校1, 3学年
各学校の養護教諭が検査



※個人の希望する耳鼻咽喉科に
おいて治療継続

※仙台市中心身障害児就学指導委員会
(聴覚障害部会)に資料提出

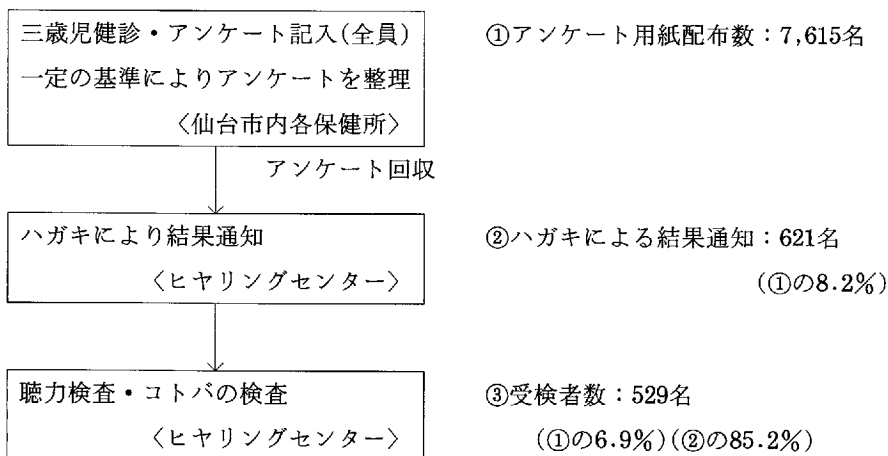
◎検査結果

昭和63年在籍者65,264名中、第一次選別検査でピックアップされた者は1,071名。その内呼び出しに応じてヒヤリングセンターで第二次検査、および精密検査を受けた者は816名であった。そのうち難聴が認められた者は374名(出現率0.58%)で、これらの者については、耳鼻科医へ紹介、難聴学級へ教育相談依頼、等の事後処置を行った。

[昭和64年度]

(イ)三歳児健診

◎検査の手順



①アンケート用紙配布数：7,615名

②ハガキによる結果通知：621名
(①の8.2%)

③受検者数：529名
(①の6.9%)(②の85.2%)

◎検査結果

一定の基準によりアンケートを整理し、そこでピックアップされた621名に検査通知を出した。そのうち85.2%にあたる529名が検査を受けた。検査結果は下表の通りである(重複項目の場合は2項目に該当する)。

但し、検査継続中で結果が出ていないものは除いた。

発音異常	256(47.2%)
難聴	25(4.6%)
言語発達遅滞	27(5.0%)
吃音	5(0.9%)
異常なし	229(42.3%)
<hr/>	
延べ人数	542

平成元年度仙台市

実人数：529名

延べ人数：542名